

事件は現場で起きています



「どの様にして 乾草を給与しますか？」

広酪事業推進課 係長 大島達夫

一時落ち着いていた飼料価格は、単味・配合飼料に加えて、粗飼料価格まで上昇を始めました。記録的な円高推移に逆行して、その価格は上昇を続けています。

飼料費の中で濃厚飼料費と2分して大きな割合を占めるのが粗飼料費です。これを自給飼料の生産費よりいくらかでも低減できれば、濃厚飼料1kgあたり4円も5円も価格低減に結び付けられます。しかし、土地基盤、機械への投資、限られた労働力、堆肥販売等

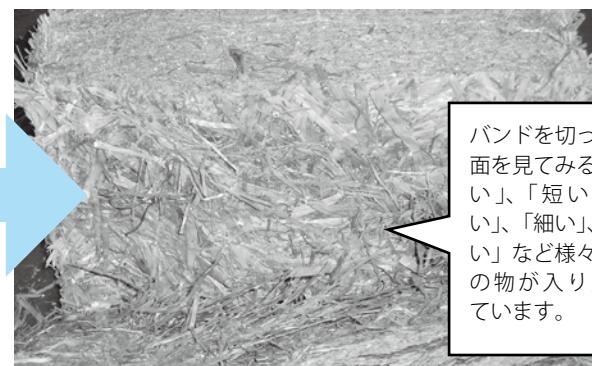
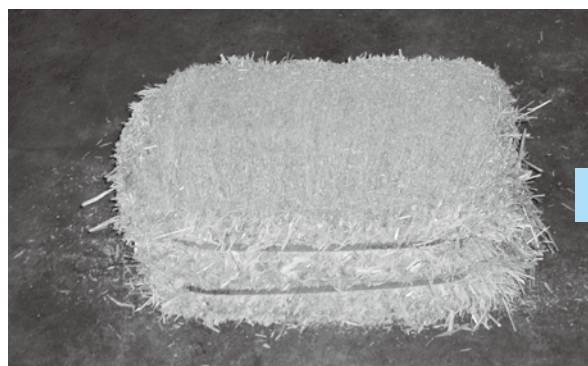
の様々な理由によって、自給飼料生産も経営にとって必ずしも優位とは言い切れません。

多くの牧場では、購入乾草が粗飼料の主体を占めますが、その給与方法は様々です。粗飼料は以前「らくのうだより」で触れましたように分析値で表せば「オーツヘイ」は良品で単純に次のような成分値にあります。

区 分	乾物量	CP	EE	TDN	CF	ADF	NDF	CA
オーツヘイ (CF ≧ 35%)	11.7	5.5	1.5	42	32.9	34.8	60	6.4
	(乾物)	6.2	1.7	47.6	37.3	39.4	68	7.2

■梱包された乾草と給与方法を検証してみよう

1 梱包乾草のバンドを切ってみると・・・



バンドを切って、内面を見てみると「長い」、「短い」、「太い」、「細い」、「細かい」など様々な状態の物が入り交っています。

2 輸入乾牧草を給与する時に、牛の前にポンポンとブロック毎投げていませんか？



▼牛の「カウコンフォート」に対して、飼養者側の「飼うコンフォート」を考えると、給与作業を簡単にして楽に行うことは非常に重要ですが、牛の食べにくいことによる食い込み量の低下や引き込み等による無駄の発生、時間のロスによる水濡れや唾液による嗜好性の低下は相当量になります。酪農経営では、安定的に粗飼料を食べさせることが健康に牛を飼う第一歩であります。無駄な残滓を減らすことも経費節減の必須条件でもあります。

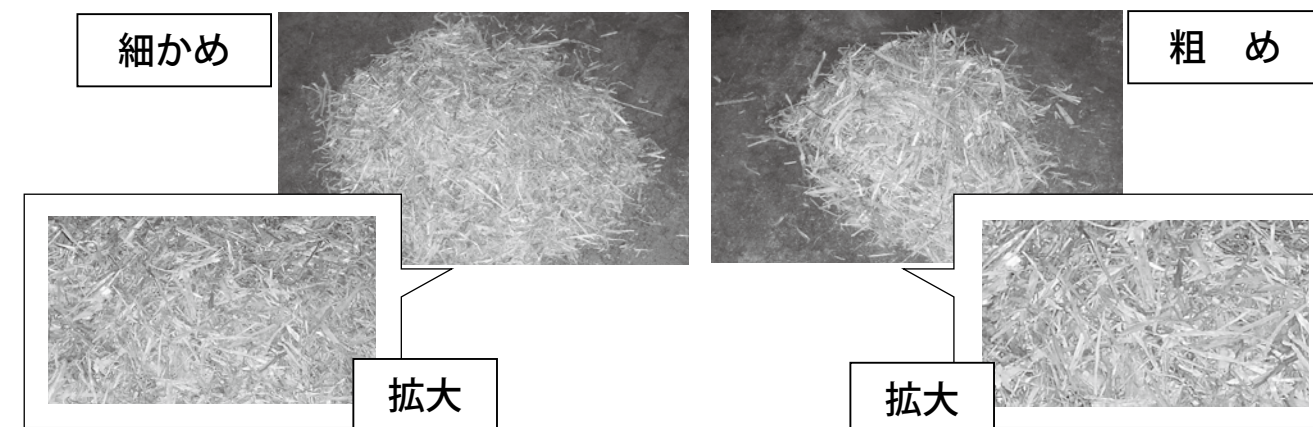
3 ブロックをほぐして給与した場合

▼多くの方は、1頭毎にある程度ほぐして給与をされています。



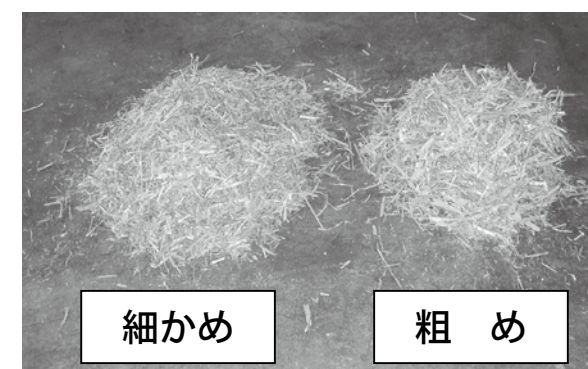
4 乾草を仕分けてみよう

▼ざっくりと『粗め』と『細かめ』に仕分けしてみました。



5 1梱包を『粗め』と『細かめ』に2分

▼1梱包を「粗め」と「細かめ」に2分してみるとこのような割合になりました。



6 給与方法を工夫してみよう

▼飼養牛は、元来持っている好み(育成や飼養時に後天的に身に付いた場合も多い)があって、それぞれ粗い粗飼料や細かくて柔らかい粗飼料を好みます。また、飼養者側では、分娩後の搾乳期や飼料の給与状況によって、その内容を使い分けたい時があります。多くの場合は、粗飼料の種類を変えて対応されていますが、1つの梱包内には違う乾草と言ってもいい程状態が様々であることに注意が必要です。

①労力がかかるが初めから仕分けする、②産褥期の牛に給与して15分後に違う牛に移し、それぞれ牛に合った部分を食べさせる、③カッターで切って全体を出来るだけ一律なものに加工するといった方法があります。何れの方法も手間がかかり「飼うコンフォート」には沿いませんが、これを実施してみる価値は相応にあると思います。興味のある方は是非ご検討下さい。